

ワールド・ミュージックの館 ～峰 万里恵と仲間たち～

第2回 女性たちのつくったうた



峰 万里恵 (うた) 齋藤 徹 (コントラバス) 喜多 直毅 (ヴァイオリン) 高場 将美 (ギター、話し)

2011年9月10日 cafe&space ポレポレ坐

<I>

1. 20年 *Veinte años*

作詞：ギジェルミーナ・アランブール
Guillermina Aramburu
作曲：マリーア・テレサ・ベラ
María Teresa Vera

キューバの《トロバ》は、ロマンティックな詩をギターを弾きながらうたう、19世紀からある民衆音楽のジャンルです。マリーア・テレサ・ベラは、男女含めてこのジャンルの代表者のひとり、貴重な個性のもちぬしです。また、先輩たちから学んだ伝統のギター・歌の技術を、男女を含めて新しい世代に伝える、厳格な、とてもいい先生でもあったそうです。

この曲は《アバネーラ》という形式（リズム）で、1935年に発表されました。作詞者は、マリーア・テレサさんの子ども時代から親友の女性で、上流階級の芸術愛好家の美男子と結婚して幸せでしたが、20年後に彼の浮気で離婚しました。その心境を詩に書いて、マリーア・テレサにうたってもらったのです。

.....
わたしがあなたを愛しているかどうか、あなたにはどうでもいいことでしょう。もうあなたはわたしを愛していないのだから。過ぎてしまった愛は 思い出してはいけません。

わたしは あなたの人生の夢だった、もう遠くなったある日のこと。きょうわたしは過ぎ去ったものの代表。わたしは それではいやだ。

もし人が 愛しているさまざまのものごとに 手がとどくものなら、あな

たは同じようにわたしを愛しているだろう、20年前と同じに。

どんなに悲しく わたしたちは見ていることか、わたしたちから去っていく愛を。それは魂のひとかけら。憐れみなく奪い取られていくもの。

2. ため息の橋

El Puente de los Suspiros

作詞作曲：チャブーカ・グランダ
Chabuca Granda

チャブーカさんは、お父さんの仕事（鉱山労働者の管理）の関係で、ペルーのアンデス高地で生まれ、やがて首都リマに移って、アフリカ系混血の貧しい人たちの音楽に魅せられ、彼らから学んだリズムで作詞作曲をはじめました（子どものころからピアノを習っていた）。作者として成功してからは、みずからうたい、各国にペルーの民衆文化を紹介しました。

この曲は、ペルー独自のワルツのスタイルで、リマの街外れの思い出をうたいます。現在は、そばに海岸のリゾートをひかえ、リマ市民の愛する行楽地(?)。橋を見下ろす公園には、チャブーカさんの銅像が建っています。

.....
かわいい橋——隠れている 葉の茂みに、追憶たちのあいだに。

かわいい橋——伸びている とある谷間の傷口の上に。おまえの材木たちは 思いの芽を出す。わたしの心はおまえの手すりにしっかりとつかまる。

わたしの橋は いつも午後には わたしを待っている詩人、静かな木組みと いっしょに。そして橋はため息をつき わたしはため息をつく。彼はわたしを待ち わたしは彼を置いて去る。ひとりきりで 彼の傷——彼の谷間——の上に。

そして古い伝説はものがたっていく、愛する男の不当なへだたりのことを。打ちひしがれた彼の勇気、フィクスの木たちに打ちひしがれた。その木の根は埋められている、彼の愛した女性の中に。

かわいい橋——眠りこんでいる。谷川のせせらぎのあいだで 抱き合っている、思い出たちと……崖たちと……石段たちと。

「ため息の橋」 おまえに守っていてほしい、おまえの心あたたまる沈黙の中に わたしの ひめごとを。

3. ラ・ハルディネーラ (庭づくりの女)

La jardinera

作詞作曲：ピオレータ・パーラ
Violeta Parra

チリの地方の貧しい地方に生まれたピオレータさんは、若いころは美人のお姉さんといっしょに酒場で民謡をう

たい、各地のフォルクローレを深く研究し、豊かなギターと歌のスタイルを身につけました。肩書きは、詩人・歌手・ギタリストのほか、タピストリ作家・画家・民俗学者・民俗芸能団の監督・民衆劇場経営者……といったところですが、どの分野でも最高クラス、そしてどの分野でもお金はかせげませんでした。

この曲は、チリを代表するダンス《クエーカ》のリズムで、いつも悲しくて、皮肉っぽく、でも不思議にエネルギーいっぱい彼女らしさにあふれています。

あなたのことを忘れるために わたしは土をたがやしましょう。そこに見つけたい、わたしの悩みの薬を。

ここにはバラの木を植えましょう、トゲのいちばん太いのを。あなたにかぶせる冠のじゅんぴ。わたしのなかであなたが死ぬときのため。

少しずつ伸びてゆくでしょう、楽しいなパンジー（思い）たちが。もう花が咲いたころには あなたの思い出は遠くへ行っている。

ポピーの花で わたしは あなたのいちばんの友だちになるでしょう。枕の下に置こう、心安らかに眠るために。

メリッサの若い芽よ、わたしの悩みがふえたときは、わたしの庭の花たちは わたしの看護婦になってくれるはず。

そしてもしわたしが あなたが後悔する前にいなくなったら、あなたへの遺産がこの花たち。彼女たちで病気を治しにいらっしやい。

わたしの悲しみのために 青いスマイレ。赤いカーネーションは わたしの情熱のため。そして あなたがわたしにこたえてくれるかどうか知るために、わたしは白いマンサニジョーンの花びらをむしる。

わたしをたくさん愛していても——少しだけ——ぜんぜんでも——わたしの心は平気なもの。

4. オウサ (聞いてください)

Ouçá

作詞作曲：マイーザ Maysa

マイーザは、ブラジルのサンパウロ出身。自身もいわゆる両家の子女でしたが、けた違いのお金持ちの家（ブラジル最高の財閥）の御曹司に見初められて、相手はかなり年上でしたが、18才で結婚しました。2年後に初のレコード録音、出産、しかし彼女のアーティスト活動を許さない財閥の息子とは離婚しました。その後は、ロマンスや飲酒に関する話題で芸能誌にぎわせる、なかなか華やかなスター人生でした。49才で、みずから運転していた自動車事故で死去。どんな時期にも、うたうときは、聖女のように、歌に心を捧げつくしていました。

この曲は、若い時代のヒット作です。

.....
聞いてください……

あなたの人生を ほかの愛するひとと生きていきなさい…… きょう もうわたしは疲れた。あなたにとって だれでもない人間でいることに……

過ぎたことは あなたを納得させるために じゅうぶんではなかった。未来はとて大きなものになるでしょう——ただわたしとあなた……

思い出が あなたといっしょに住むようになったら、そして とつても小さな声で さみしくて あなたが泣いたら、あなたは思い出さだろう——いつの日だったか 愛情だけを求めただれかが存在したことを。

そしてあなたは 与えないことを本気で望んだ。こぼむことを 本気で望んだ。

5. ラグリマ (涙)

作詞：アマーリア・ロドリゲシュ
Amália Rodrigues
作曲：カルロス・ゴンサウヴシュ
Carlos Gonçalves

アマーリアさんは、20世紀の（たぶんすべての時代を通じて）ポピュラー音楽の世界最高の声と歌の技術をもったアーティストでしょう（男女を問わず）。ポルトガルのファドの代表者、というより、国籍やジャンルを超えた歌い手です。

この曲は、すでに大歌手として円熟した後に、重い病気で詩と対面していた時期に、ベッドの中で書いた歌詞で

す。「わたしは詩人ではないことは、わかっています。でも、じぶんのうたのものの作詞くらいなら書けます」
作曲者は、アマーリアさんの後期の活動を長く支えたポルトガル・ギター奏者です。

なやみにあふれて なやみにあふれて わたしは横たわり、更にふえたなやみとともに目覚める。わたしの胸に もうわたしの胸に居ついたこの気持ちの動きかた、こんなにあなただけを愛している気持ちの動きかた。

絶望——わたしを絶望させるのはわたしの中の わたしの中を痛めつけるこの刑罰。あなたがきらい、わたしは あなたがきらいと言う。そして夜に 夜にはあなたの夢を見る。

いつの日か 死んでゆくことをさどったら、あなたに会えないゆえの絶望のうちに わたしはショールを地にひろげよう。ショールをひろげよう。そしてそのまま まどろんでいこう。

もしも死ぬときに、もしも死ぬことによってあなたが あなたがわたしのことを 泣いてくれるとわかったら、ひとしづくの涙、あなたのひとしづくの涙ゆえに、どんなにうれしく わたしは命を捨てることだろう。

6. 人生にありがとう *Gracias a la vida*

作詞作曲：ビオレータ・パーラ

Violeta Parra

この曲をつくって数ヶ月後に、ビオレータさんはみずから作った劇場《民衆のテント》で自殺しました。この曲は、みずから『ビオレータ・パーラの最後の作品集』と題したアルバムで録音しています。

人生のおかげ。人生はこんなにたくさん わたしにくれてきた。

わたしにふたつの明星をくれた。それを開くと わたしは完全に区別できる、白いものから黒いものを、高い空の底に 星があふれているのを、そして群衆の中に わたしの愛する人を。

わたしに聞くことをくれた。耳はいっぱいに広がって 夜も昼も聞きとめておく。——こおろぎたちを、カナリアたちを、ハンマーの音、タービン、犬のほえる声、夕立。そしてわたしのほんとうに愛している人の あんなにやさしい声を。

わたしに音と ABCの文字をくれた。それといっしょにくれたことばで わたしは考え、人に告げる。母、友、きょうだい、そして わたしが愛している人の魂の道を照らしている光。

人生のおかげ。人生から こんなに
たくさん わたしはもらった。わたし
に、疲れた両足で進んで行く歩みをく
れた。その足でわたしは歩いた、数々
の街を、沼地を、浜辺を、荒れ野を、
山々と平原を、そしてあなたの家、あ
なたの通り、あなたの中庭を。

わたしに心臓をくれた。それは鼓動
を早める、わたしが人間の頭脳の成果
を見るとき、良いものが悪いものから
こんなに遠くにいるのを見るとき、あ
なたの澄んだ両目の底を見るとき。

人生のおかげ。人生はこんなにたく
さん わたしにくれてきた。わたしに
笑いをくれた、涙をくれた。そうやっ
てわたしは 失意から幸せを区別する。
そのふたつはわたしの歌声を 作る材
料。

そして あなたたちの歌声を——そ
れは同じ歌声。そしてみんなの歌声を
——それはわたし自身の歌声。

人生のおかげ。人生はこんなにた
くさん わたしにくれてきた。

*スペイン語 *vida* は「人生」「命」
「生活」「生きていること」「生きて
きたこと」のすべての意味を含みます。

7. 心の底から *Desde el alma*

作曲：ロシータ・メロ *Rosita Melo*



作曲者は、ウルグアイの首都モンテビ
デオ生まれで、3才のときにアルゼン
チンのブエノスアイレスに引っ越して
きました。14才で(1911年)このロ
マンティックなワルツを作曲しました
が、音楽家にはならず、ジャーナリス
トと結婚して、ふつうの人生でした。
この曲は、1940年代の末に歌詞がつい
て、たいへん有名になっています。

<II>

1. プリ・ダイ(おばあさん)の ワルツ *La valse de Puri Dai*

作詞作曲：エレーヌ・メルシュテイン
Hélène Mershtein

エレーヌさんはアーティストではあ
りません。北東フランスに住むマヌー
シュ(ジブシーの1区分、ドイツでは
シンティと呼ばれる)の女性です。子

どものころ、姉妹でナチの死の手から
逃れ、その体験を、トニー・ガトリフ
監督の映画『僕のスイング』で涙なが
らに、とぎれととぎれに語って、短い
けれど感動的な1シーンになっていまし
た。そのときの、役名(?)がプリ・
ダイ(「祖母」を意味するマヌーシュ
語)でした。

この曲は、伝承されてきたマヌーシ
ュの民謡を、エレナおばあさんが編
んだものでしょう。

.....
冬 何年か つづいた。春が ある、
また ここに。

木々は また 緑色になった。いま
わたしたちの時——また ここに。

ごらん 集まってくる わたした
ちの人々。みんなの消息は知らなか
った、長く たくさんの太陽のあいだ。

彼らのためにできることは いま、
枯れ木で 大きな焚き火。

森のそばに わたしたちのワゴン
を停める。なんとすばらしい 外に
出られることは。

あなたには見える 懐かしいもの
ごとが。いまこれから あなたの心
は ふたたび開く。

おいで わたしたちは 旅に出よう。
そこで ひさしぶりに語り合おう。

そこに わたしたちは みんな一緒
にいる。そこで音楽しよう、そして
飲もう、そして踊ろう。

2. 見捨てられたやもめの コリード

La viuda abandonada

作詞作曲：アマーリア・メンドーサ
Amalia Mendoza

このアマーリアさんは、メキシコの
先住民と混血した民俗文化が豊かなミ
チョアカーン州の「熱い土地」と呼ば
れる高原の出身。一家は昔の先住民の
王家(領土は大きくはないですが)の
直系の血筋だとか……。彼女は、メキ
シコならではの色彩と感情をもったジ
ャナル《ランチエーラ》の、女王様の
ひとりでした。

.....
わたしは結婚したばかり。だれもわ
たしを楽しむことはできません。わた
しの夫はわたしを置いて行った、自由
の意味をはきちがえて。

「もし あなた もしかして
わたしの夫を見ませんでしたか？」

「奥さん、わたしはなにも見てません。
その人の特徴を教えてくださいな
にか言えるかも」

「わたしの夫は背が高く金髪。そん
なに悪い男ぶりではありません。右
の手首に 消えかかった文句がある」
「あなたの言う特徴だと あなたの夫
は死んでます。バレンシアの町で
ある日本人に殺されました」

3年間わたしは彼を待ちました。あ

たことを忘れていた。

もうわたしは川へ洗たくに行かない。でも泣くことはつづいている。もうわたしは夢見ていたことを夢見ない。

もうわたしは川で洗たくしないのに、どうしてこの寒さがわたしを凍らせるのか、あのころわたしを凍らせたよりもっと。

アイ わたしのお母さん、なんとあの幸せが懐かしいことでしょうか、あのころ知った不幸であるという幸せが！おなかを空かせて過ごしたことが、わたしを凍らせた寒さが、そしてわたしの空想が。

もうわたしたちはおなかを空かせていない。母さん、でもわたしたちは同じように、持たないでいるときの望みもなくした。もうわたしたちは夢を見るすべを知らない。もうわたしたちはだましながら歩いていく。死にたい望みをだましながら。

6. あなたのせいで Por causa de você

作詞：ドロリス・ドゥラーン
Dolores Duran
作曲：トム・ジョビン
Tom Jobim

ブラジル音楽の最高峰トムが弾くこのメロディを聴いて深く感動したドロ

ーリスが、すぐに歌詞をつけました。彼女は、英語やフランス語でもうたう、人気者のポピュラー歌手でした。

ある夜、ナイトクラブでのステージのあと、仲間たちと飲みに行き、家に帰って「明日は起こさないでね」と言っ

てベッドに入り、眠っているうちに安らかに亡くなりました。29才でした。アルコールと睡眠薬の合併作用だったようです。

.....
ああ あなたの目に見えるのはただ わたしがどのようになったのか、そして すべてがどうなってしまったかということ。こんなに大きな悲しみ——あなたが手をふれた いちばん単純なものたちにまでも。

わたしたちの家は、愛するひと、もう慣れていて あなたを待ち受けていることに。窓辺の花たちは ほほえんでいた うたっていた、あなたゆえに。

さあ わたしのいい人、もう決してお願いだから わたしたちを置いていかないで。わたしたちは人生と夢。わたしたちは愛そのもの。

入りなさい いい人、お願い、悪い世界に ふたたびあなたを 連れて行かせないで。

ただわたしを抱いてください。話してはいけない、思い出してはいけない泣いてはいけない、わたしのいい人。

7. わたしの夢 Sonho meu

作詞：デウシウ・ヂ・カルヴァーリョ
Délcio de Carvalho
作曲：イヴォーニ・ララ
Dona Ivone Lara

ドナ・イヴォーニ（「ドナ」は女性への敬称）は、リオ（ブラジル）のサンバ伝統の共同体のリーダー格のひとりです。カーニバルのパレードを監督・指導する仕事は無報酬で、病院の精神分析医の助手をして生計を立てていました（勉強して資格を取ったのです）。定年退職後は、サンバひとすじに生きてきました。

.....
わたしの夢、わたしの夢。遠くに住んでいるひとを見つけに行きなさい、わたしの夢。

このサウダーヂを見せてあげなさい、わたしの夢、あなたがいつしよにもっている自由も。

わたしの空では 道案内の星は なくなってしまった。冷たい夜明けがわたしにはこんでくるのは メランコリーだけ。わたしの夢。

わたしには聞こえる 夜の歌声が 風の口に 花たちの舞踊をやっている、わたしの思いのなかで。

もってきておくれ ひとつのサンバの純粹さを、深く感じられて 愛の悩みが刻まれた純粹さを。

ひとびとのからだを揺らせる ひと

つのサンバ。そして 気まぐれ者の風、花に子守り歌をうたいながら。

- 選曲・構成：峰 万里恵
- プログラム制作：高場 将美

次回のお知らせ

ワールド・ミュージックの館

～峰万里恵と仲間たち～

第3回 フィエスタ!!

峰 万里恵(うた)

齋藤 徹(コントラバス)

喜多 直毅(ヴァイオリン)

高場 将美(ギター、話し)

☆☆☆

12月24日 (土)

cafe&space ポレポレ坐

●さまざまなジャンルから フィエスタにふさわしい曲目をおとどけします。踊りもあるかも。